

## 日本の選挙制度、これでいいの？ 選挙改革フォーラムと新しい市民選挙を議論



選挙改革フォーラムと当団体が10月21日に共催した「世界の選挙と暮らしVOL.7：新しい選挙のしくみを！初めて経験した、おかしい選挙制度」の報告をしたいと思います。

最初に、片木淳氏(元自治省選挙部長、元選挙市民審議会共同代表)の基調講演が行われました。片木氏は最近、公示日前に選挙実務準備のお願い文書を送付した件が選挙準備行為に当たるとして起訴された元衆院議員の裁判で、意見書を書いています。

選挙運動の定義が破綻しているとして、違反行為を拡大させる類推解釈の禁止(罪刑法定主義)に反する大阪高裁判決を批判しております。

現在の公選法は昭和25年(1950年)に改正されたものですが、天皇主権の明治憲法下、治安維持法と同じ1925年に成立したものが起源となっており、選挙運動規制の考え方がいまだに引き継がれているのです。片木氏は公選法について主権者性を軽視する管理者の視点に立っていると批判します。

選挙運動規制は財力格差の影響を防ぐことが理由とされます。しかし、現実には候補者情報の提供を阻害しており、特に新人に対する委縮効果をもたらしているため、片木氏は公選法を廃止して、自由で楽しい新市民選挙法を成立させる必要があると指摘しました。それは冒頭で紹介されたスウェーデンの選挙小屋などに象徴されるものです。

この新市民選挙法の提案を結論とする選挙市民審議会答申2冊が刊行されています。答申は、大きく選挙制度、選挙権・被選挙権、選挙運動の3分野が抱える問題点を洗い出し、包括的な代替案を提示したものです。第一期答申の冊子版は当時の国会議員全員にお配りしていますし、電子ファイルは両答申について当団体の公式サイトで公開していますので、ぜひご覧ください。

次に女性地方議会議員3人によるトークセッションが行われました。杉並区議のてらだはるか氏、国分寺市議の鈴木ちひろ氏、小平市議の水口かずえ氏は選挙カーをなるべく使わない方針で共通。選挙前の政治活動チラシを平仮名だけにして、4歳の子どもに読んでもらったことが家族の話題になった例(てらだ氏)、休憩時間を多くとり、スロー選挙を心掛けた選挙運動(鈴木氏)、玉川上水分断の道路建設をめぐる

住民投票条例運動や市長選挙への立候補にからむ住民自治運動の経験(水口氏)などについて語りました。

3人とも選挙市民審議会答申に盛り込まれた立候補年齢の18歳への引き下げに賛成です。社会的立場が同じであると選びやすい、同年代の候補者がいれば関心を持ちやすい、などの意見が出されました。

片木氏もコメントで、憲法で規定される国民の代表としての議員とは、社会の人口構成の代表としての社会的代表と解されるのが一般的であるとしています。

議員らは、移動中の選挙カーでは演説ができないなどとする公選法の規定に、戸惑いを表明していました。べからず集としての公選法の抜本改正、やはり必要です。

# 「被選挙権年齢の引き下げ」に対する 若き人びとの思い

2015年6月の公職選挙法等の一部改正する法律が成立し、2016年6月より施行され年齢満18歳以上20歳未満の者も有権者資格を得て国政選挙に参加することができるようになりました。我が国としては、1945年の女性への参政権の拡大以来、70年ぶりの参政権の拡大に高い関心が示されましたが、その一方で被選挙権年齢の引き下げは据え置かれたままで、未だ欠陥があることは否めません。

そこで、今回は被選挙権年齢について、若手政治家と政治に関心の高い若者の意見を伺いました。これら若者の意見を踏まえて、さらに今後の選挙制度の改革運動を高めていければと考えています。

## 若さは武器ではなく価値



### 衆議院議員 馬場雄基さん

<プロフィール> ばば・ゆうき: 衆議院議員(福島2区)。1992年10月15日郡山生まれ。慶応義塾大学法学部政治学科卒業後、三井住友信託銀行を経て、松下政経塾へ入塾。国内外で地方自治を学び、コミュニティ施設経営にまちづくりの可能性を見出す。第49回衆議院議員選挙に立憲民主党から立候補。比例代表で当選。全国最年少・唯一の20代衆議院議員・初の平成生まれ国会議員となる。

#### ●あなたは被選挙権年齢の引き下げについて、どのようにお考えでしょうか。

多様性を反映するという観点では、若い議員が増えることはよいことだと思う。しかしながら、選挙に出るといことは、有権者の思い、命、暮らしを託される、ということであり、被選挙権年齢を引き下げることが目的ではなく、手段であることを忘れてはならない。仮に、年齢を引き下げること自体を目的にしてしまえば、未来ある若者を政治が潰してしまいかねない大きなリスクもはらんでいるため、被選挙権年齢の引き下げについては、慎重に考えるべきである。

#### ●なぜ選挙に立候補されたのか、その動機をお聞かせください。

党から出馬要請があったが、新たに始めた仕事もあったため相当に悩んだ。しかし、東日本大震災時に高校生だった者として、当時の真実を知る方々と、震災を知らない世代の鎧になりながら、乗り越えていかなくてはならない復興の難しい課題に対し、分断のない福島を築いていかなくてはならないと決意したから。

#### ●その際、現在の選挙制度における立候補年齢の規定について、特にお考えがありましたか。

特にない。若さは、武器ではなく価値であり、経験の乏しさという弱さと、失敗することのできる時間がある強さを持っているものだと感じた。

●当選後、議会や議員とのコミュニケーションなどで感ることや、当初描いていたイメージとのギャップなどがありますか。失敗も多いが、ギャップは感じない。ただし、「自分がなんのために政治家になったのか」という志を明確に持ち続けねばならないとも感じた。情報社会を謳いながら、国会の情報伝達ではファックスが用いられるなど、矛盾を覚えた。

## 早く立候補したいという思いを実現



### さいたま市議会議員 堀川友良さん

<プロフィール>ほりかわ・ともよし:さいたま市議会議員(北区)。1997年さいたま市生まれ。早稲田大学商学部卒業後、通信会社KDDIで法人部門の採算管理を担当。業務を通じ「1円を大切に作る姿勢を学ぶ」。2023年4月の統一地方選で25歳最年少議員としてさいたま市議会議員に当選、現在1期目。

●あなたは被選挙権年齢の引き下げについて、どのようにお考えでしょうか。  
被選挙権年齢を引き下げるべきである。

●なぜ選挙に立候補されたのか、その動機をお聞かせください。その際、現在の選挙制度における立候補年齢の規定について、特にお考えがありましたか。

祖母の介護施設における事故死を経験して以降、政治家になりたいと思っていたため立候補した。上記を意識していたので、自分が立候補可能な最下限の年齢で立候補することを志向していた。よって、立候補可能年齢がより低ければさらに早く立候補していたと思う。

●当選後、議会や議員とのコミュニケーションなどで感ることや、当初描いていたイメージとのギャップなどがありますか。特にない。

●議会でご自分の政策をどのように反映させたいとお考えですか。

議員各位の独立した意思で提案する議案に賛否を示して欲しい。(現状党派性に大きく左右されているため)

●その他

投票を行う人間に年齢的な制限をかけているので、立候補する側の年齢を下げて良いと思う。方方で耳にする懸念の中には立候補する人間の質を心配するものが多い。ただ、それは民主主義の中で『選択する側』に制限を設けている以上、質の低い候補者は選択されないと考えるべきである。よって、被選挙権に関しては年齢制限を引き下げても問題ないと考えている。(むしろ、個人的には投票権年齢の制限をより大切に考える必要があると思う)

## 投票率向上には同世代の立候補が必要



### 立候補年齢引き下げ訴訟原告 能條桃子さん

<プロフィール>のうじょう・ももこ:1998年生まれ。慶應義塾大学院経済学研究科修士卒。若者の投票率が80%を超えるデンマークに留学し、若い世代の政治参加を促進するNO YOUTH NO JAPANを設立。2022年、20代・30代の地方選挙への立候補を支援するFIFTYS PROJECTを行う一般社団法人NewSceneを設立。テレビ朝日、東京MXに出演中。TIME誌の次世代の100人に選出。

18歳から投票に行けても、そこに同年代の顔がなかったら、自分の問題と思う議論がなかったら、投票に行こうとは思えない。投票率向上には被選挙権年齢の引き下げが欠かせないのではないかと、2023年に立候補年齢引き下げプロジェクトをはじめました。

現在、立候補するには25歳、30歳になっている必要がありますが、民主主義には全ての代表が必要です。若い世代の代表も議会にいる状態を目指して、私たちは公共訴訟、ロビイングに取り組んでいます。

立候補年齢引き下げプロジェクトのCALL4サイトでは、クラウドファンディングで裁判費用も集めています。よろしければご覧いただき、応援いただければ嬉しいです！ <https://hikisage.jp>

# 最近の選挙に対する会員の見解

## アンケート回答：会員1

1. 皆さまの選挙区はどこかお知らせください。

無回答

2. 今春の統一地方選挙および最近の地方選挙において、これまでの選挙と比べて「被選挙権年齢の引き下げ」に関して、何か変化が感じられたら、その印象を具体的にお知らせください。

被選挙権年齢の引き下げに関しては、世間でそれほど大きな話題にはなっていないが、維新・政治家女子48党など若手を積極的に候補者にたてている党が台頭してきたからか、無所属でも若手候補者が選挙にでて若手新人が当選している自治体が都内でも多くみられたので、候補者側、有権者側でも少しずつ変化はしているように感じます。

被選挙権年齢引き下げの裁判がもっと取り上げられるようになると若年層の政治参加への意識が高まるのではと期待しています。

3. 総じて最近の地方選挙で、特に印象に残った事例やご意見などについてお聞かせください。

23区の首長選で中央区長が無投票当選したことに驚きました。現職の良し悪しではなく、区政について評価する機会、公開討論を通じてより良い区政につなげる機会の損失になり残念に思います。

## アンケート回答：会員2

1. 皆さまの選挙区はどこかお知らせください。

東京都板橋区

2. 今春の統一地方選挙および最近の地方選挙において、これまでの選挙と比べて「被選挙権年齢の引き下げ」に関して、何か変化が感じられたら、その印象を具体的にお知らせください。

若者が知事選の被選挙権年齢の引き下げを求めて訴訟を起こしたことがニュースになったのを見た。少しずつでも日本だけが被選挙権年齢が高いという実態が広まったように思う。

3. 総じて最近の地方選挙で、特に印象に残った事例やご意見などについてお聞かせください。

杉並区では、市民が現職議員の本会議での賛否を一覧にして配布するなど、有権者みずからが情報をまとめて、拡散することが行われた。こうした動きもあってか、投票率が上がって、議会の半分の議席を女性が占めるようになった。投票率が上がれば、議会の風景も変わるのではないかと思わされる事だった。

## アンケート回答：会員3

1. 皆さまの選挙区はどこかお知らせください。

千葉県松戸市

2. 今春の統一地方選挙および最近の地方選挙において、これまでの選挙と比べて「被選挙権年齢の引き下げ」に関して、何か変化が感じられたら、その印象を具体的にお知らせください。

私の知る範囲で、被選挙権年齢の引き下げが争点になったとかの話題は持ち上がりませんでした。

3. 総じて最近の地方選挙で、特に印象に残った事例やご意見などについてお聞かせください。

無投票選挙は日本における恥ずかしい政治風景です。政治的市民運動の仲間(女性)が、これまで無投票選挙区であった所から立候補して見事当選を果たしたことがうれしかったです。

## アンケート回答：会員4

### 1. 皆さまの選挙区はどこかお知らせください。

東京都世田谷区

### 2. 今春の統一地方選挙および最近の地方選挙において、これまでの選挙と比べて「被選挙権年齢の引き下げ」に関して、何か変化が感じられたら、その印象を具体的にお知らせください。

とくにございません。

### 3. 総じて最近の地方選挙で、特に印象に残った事例やご意見などについてお聞かせください。

女性議員が50%に達した武蔵野市、杉並区で投票率が向上し、年代別投票率を調査公表している武蔵野市ではとくに20代、30代の投票率が顕著に上昇したこと。

## アンケート回答：会員5

### 1. 皆さまの選挙区はどこかお知らせください。

東京都板橋区

### 2. 今春の統一地方選挙および最近の地方選挙において、これまでの選挙と比べて「被選挙権年齢の引き下げ」に関して、何か変化が感じられたら、その印象を具体的にお知らせください。

今回の板橋区議会議員選挙は、定数46名枠に対して66名の候補者が出馬するという激戦となりました。66名の候補者中、男性44名(66.66%)・女性22名(33.33%)で、46名の当選者中、男性29名(63.04%)・女性17名(36.95%)の割合を示しました。

また、66名の候補者中、新人が31名と半数近くに迫り、46名の当選者中でも16名(34.78%)の新人が占め、内5名がトップ10に入りました。

さらに特筆すべきは、当選者の上位2名が新人の女性だったことです。8,000票を超えてトップ当選を果たした女性は平成生まれの28歳だったことから、女性や若く新しい人材に期待を寄せる有権者が多かったのではないのでしょうか。

### 3. 総じて最近の地方選挙で、特に印象に残った事例やご意見などについてお聞かせください。

2023年の板橋区議会議員選挙の投票率は、前回(2019年)比0.23%増でした。1991年以降、投票率は50%を切り今回も微増とはいえ低投票率に甘んじています。これは、こと板橋区だけの傾向ではなく、23区の区議会議員選挙でほぼ同様の右下がりの傾向を見せています。昨今ではおおよそ37~52%の間(平均:約42%台)で推移しており、今回も港区は37.06%と低迷しています。

1971年と1975年の選挙の間にはかなりの投票率の低下が見られ、港区・文京区・目黒区・世田谷区・杉並区などは20ポイントを超えた減少となりました。つまり、数万人の単位での投票棄権が起こったというわけです。それ以降は、このような極端な減少はありませんが、全体としては微減状態が続いています。

2011年と2015年の選挙においても、港区・新宿区・目黒区の投票率が30%台となっていて、有権者の6割以上が投票を棄権したという極めて異常な事態を迎えました。民意を反映した政治を実現させるためには、投票率のアップをめざす活動が求められています。

因みに、今回の2023年区議会選挙における23区の投票率のランキングは、1位が文京区の52.16%で、以下は北区51.61%、江東区48.87%、千代田区48.59%、台東区46.84%、大田区46.65%、豊島区46.58%、世田谷区46.11%、荒川区44.57%、続く板橋区は44.19%で10位でした。(各区のHPより調査)

参考までに、国政選挙で投票率低下が顕著になるのは1996年の第41回総選挙で、小選挙区・比例代表並立

制が導入された選挙からです。当時の政権は3党連立の「自社さ政権」で、首相は橋本龍太郎氏でした。この時の投票率は59.65%でしたが、政治改革や選挙制度改革という戦後最大の激変を経て行われた選挙ながら、皮肉にも戦後初めて投票率は60%を切ってしまうという結果を招きました。

その後、投票率は62.49%、59.86%と推移し、2005年の第44回総選挙(小泉政権時代の郵政解散による選挙)では67.51%、2009年の第45回総選挙(民主党政権誕生時)には69.28%まで盛り返しました。

しかし、自民党が政権を奪回した2012年の第46回総選挙で59.32%と再び60%を切り、第47回総選挙では52.66%、第48回は53.68%、第49回は55.93%と低迷を続けています。

一方、参議院選挙でも、2019年の第25回で48.8%と50%を切り、昨年(2022年)の第26回は52.05%となっています。民意を政治に反映させるためにも、投票率の向上は必須課題であると言えるでしょう。

## 【選挙・政治制度改革に関する答申：2019】販売中！

新しい選挙のカたち、公職選挙法に変わる「新市民選挙法」の基となる提言集。選挙市民審議会による「選挙・政治制度改革に関する答申」販売中です。

- 内容：A4版・114ページ ●価格：1部＝1,000円
- 送料：1-5冊＝500円、6-10冊＝1,000円、11-15冊＝1,500円、16-20冊＝2,000円

【選挙・政治制度改革に関する答申 簡単ガイド】は、以下からダウンロードできます。

<https://toripuro.jimdo.com/%E7%AD%94%E7%94%B3-%E7%B0%A1%E5%8D%98%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89/>



## メールアドレスをお知らせください。

とりプロでは、会員の皆様とのご連絡の手段を、可能な限りメールアドレスにさせていただいております。メールアドレスをお持ちの方で未だメーリングリストに登録されていない会員は、この機会にメールアドレスの登録をお願いします。登録のお申し出は、下欄のメールまでご連絡ください。

## 会費納入およびカンパのお願い

2014年の発足から早くも9年目を迎えたとりプロは、有識者の方々のご協力をいただき「選挙市民審議会」を通して、多くの問題点を抱える選挙制度をどのように改正し政治制度改革を行うのかという提言を答申として発表してきました。ここ3年間はコロナウィルス感染症の拡大により、活動が大きく制限されたことで、公選法の問題については広く知られることになってきた反面、イベント開催もままならず、運営は厳しい状況となっております。

とりプロ会員の皆様はもとより、以前入会されていた皆様におかれましてもぜひ再度ご入会いただき、会の活動を支えていただきたくお願い申し上げます。事業年度は1月1日から12月31日までとなります。

ホームページ等でとりプロの活動をご確認の上、会費納入またはカンパをご検討くださいますよう、よろしく願いいたします。

<会費の種類> ■個人会員：1口＝2,000円 ■団体会員：1口＝5,000円

<会費納入先> ■ゆうちょ銀行：振替口座(加入者)＝とりプロ 口座番号＝00190-6-696339

※他金融機関からは、〇一九(ゼロイチキュー)店(019) 当座＝0696339



公正・平等な選挙改革にとりくむプロジェクト ●ホームページ：<https://toripuro.jimdo.com/>

●メール：[siminsenkyo@gmail.com](mailto:siminsenkyo@gmail.com) ●フェイスブック：<https://www.facebook.com/shiminsenkyo>